

綵燕神仙少

819-2

俳諧資料カード

年代 1725-29

編者 (筆者) 一休巻抄

書名 綵燕神仙少

備考

(下垣内蔵)



五十年迄の差を

六十一

いろはにほ又筆

あしあ

丁年

あそあつてそそろ 孫作め  
としし乃とれ

仁和寺のさく

ふね雲をせりまうぬ花乃所見を

文政二己卯年

燦菴梅翁



新功

梅調鉞

東吟子

打初やを... 墓の手後

年梢

全

是を... くれぬ

去奥

多あ... 花也

雨の... 全



芳春

おさく... 松北色

あや... 龍

一時軒  
子龍

去奥

菜粘

... ぬ

園... 也



去興

たふさ受て代へき  
枝も守れり

後

橘令

松令

うしろやみまきまき  
うしろやみまきまき

志月  
うしろや

月  
令



不惑乃まきまき

何ともく枝の

石州溪田

画水

味まきまきまき

歳旦

あめくし園

筆考

いけさ

うしろや

せいほ

えくまのまき

お

のち令





さくらば

おのち

草花や

杖橋

鳥渡館

蒼天

うき

新玉

月

水

松竹  
 志智  
 月

洛  
 湖時雨



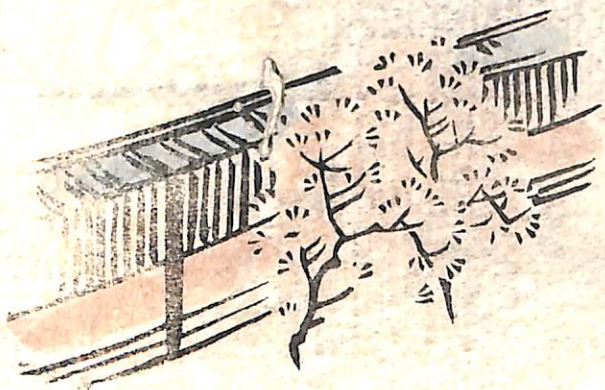
まき野

とてし

あしし

花のまが

玉丹菴



龜山よのほりて

大堰川を尋

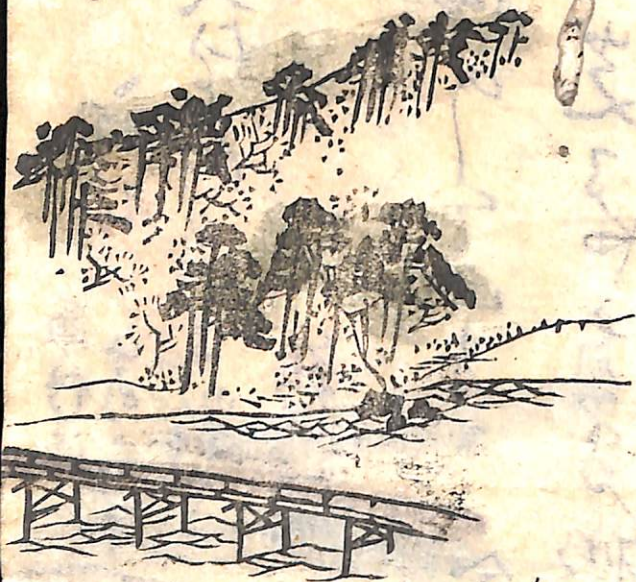
は景を

又やあしの

山橋

石を

女橋



初陽

南伊法

中略白案

又ひそりうつる巖や

鏡又解

橋のそ四方に全

芝るや七葉の柳

行年成りてあけあけの春

あけあけの春



ほたけ町九折の橋ま  
くし極く園をさあ  
かしけりき扇面の為を  
たしあひか

あけあけ

羽子江

あけあけ

あけあけ



右あしうらみしめ  
まゝをささやみあり

枝をく君り

花傘風情

秀湖

いふ事  
東のうらみしめ  
南



洛崎原花傘の道中

柳

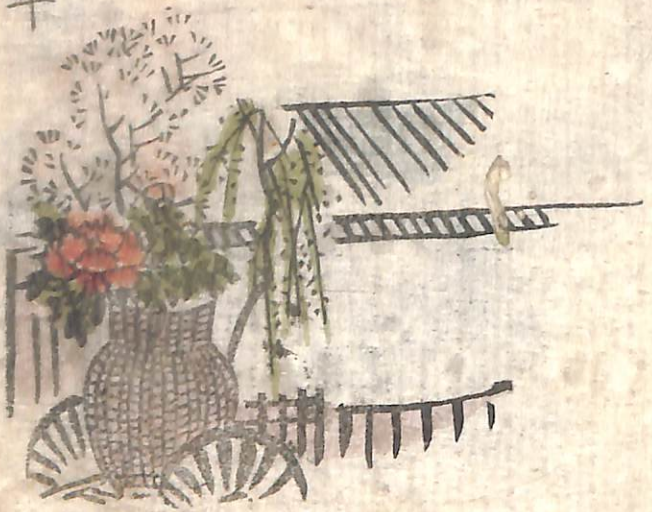
世の傘

や

柳

花乃雨

茨木 撫章



江戸平野花笠

古き通るき〜

花々 紙や川

炭木

サ一清

小生社

〜

子あむや歌向の

今



一枚居宗匠

還唐賀春典

〜

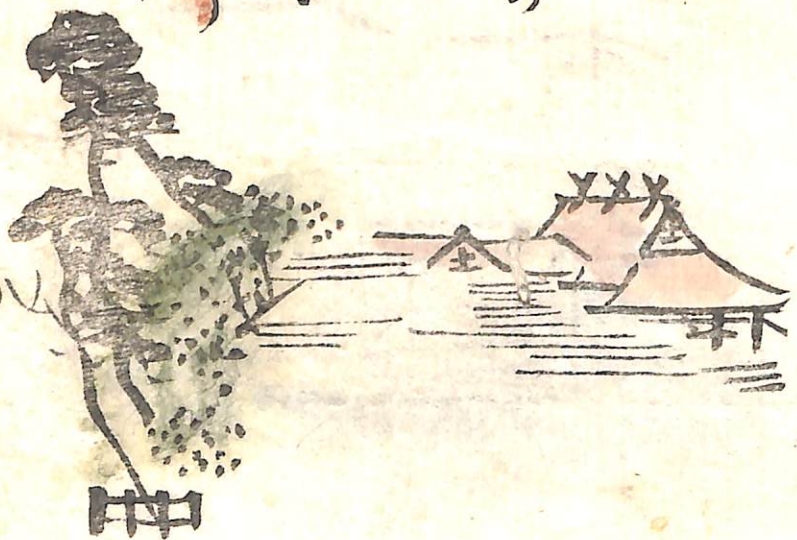
我代七へ塗敷家

老松也日南へ

のりるり紙

右

白糸山鏡



あゝの竹

あゝをいほそそ

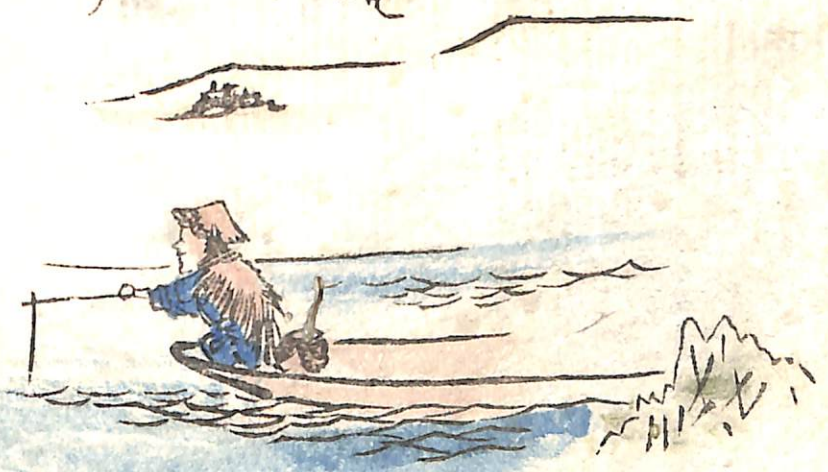
神まつりききも

鯛も木の葉も

孫あゝあゝ  
一炊菴

盆め  
まゝゝゝ

翁妙



春無

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

自樂



一枚公羽乃

還一唐を賀し

官位も

昇るさや

氏のま

梅丸

鳥の園唐を祝し

く千代乃かき

くや花唐 梅也



まき無

まきおし白のこ

まき梅乃花

梅丸

ゆめさるん  
くへん山さ

全

山さ出山也

志とハ松も全

くまの岩



善  
身

梅咲て月よ

あゝ 舟のきぬ

元齋

小笠まきせ

園乃雪

一炊菴



歳旦

若水乃あ

あゝ

初日のあ

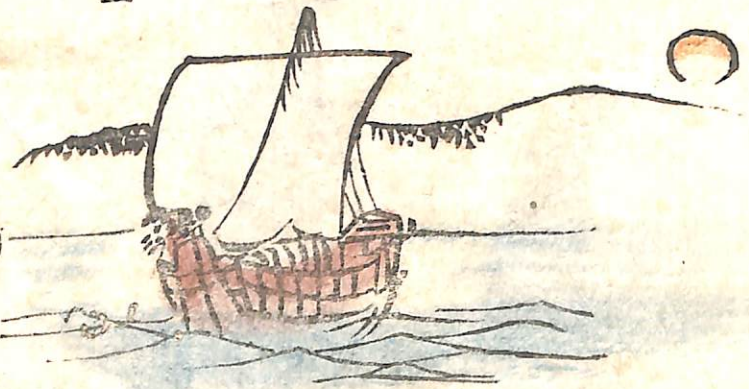
洛

雀立今

羅章

せのほ

入船よせのほ乃雪の全  
つてりりり



春奥

まろ柳乃

新うしろむく

まろの月



洛 雀立舎

羅章

試筆

市巾

ふりひき

みろくちり

柳

兀齋



正月十五日乃明方の  
聖廟に詣りて

爰に月花乃吹もつり土筆

几齋

下命眺望

際とくく地をく申うす  
雲の雪

全

葛城や 藤のつるも

山平の匂

全

大自土活し一良

まろく実

南水

春興

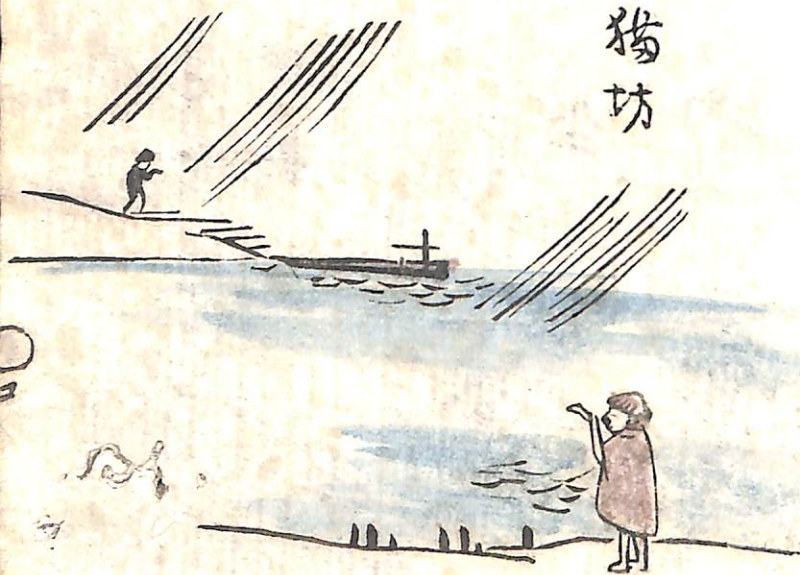
山猫坊

山猫坊

人子

お色

まろく実





元旦

酒を心や

跳子あそび乃

けさのま

秀湖

丁太真

けしき席を

うめのむ

又あひぬ

フシ舟ちりら

全



東君

あかや星の

あけぎさるる

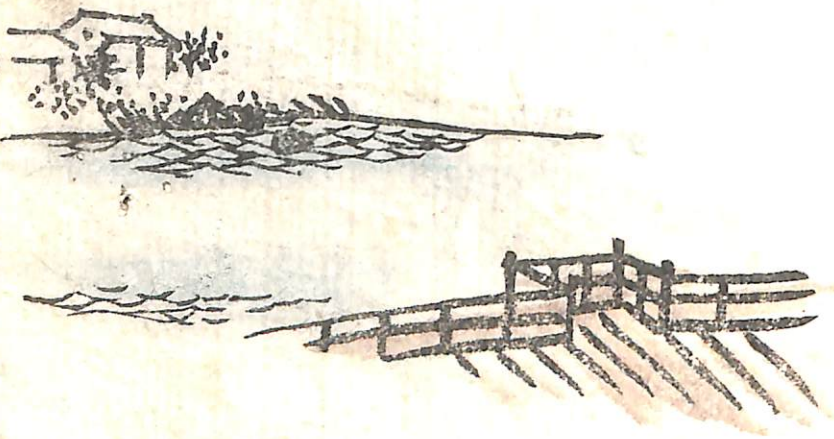
五鳳

丁太真

うさぎの春

氷雪の治 全

八景





一炊菴老より還屠乃  
影をーてよあさ

木の卦子代よ 亀川

鳴る 百千子

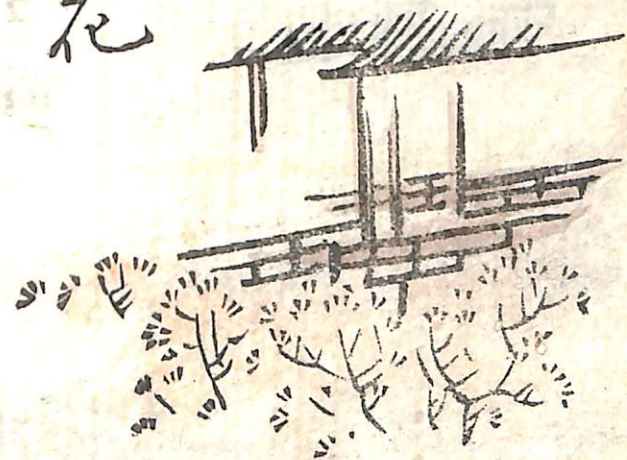
山守

山守七花子  
懐子

海都友

静かなるるん

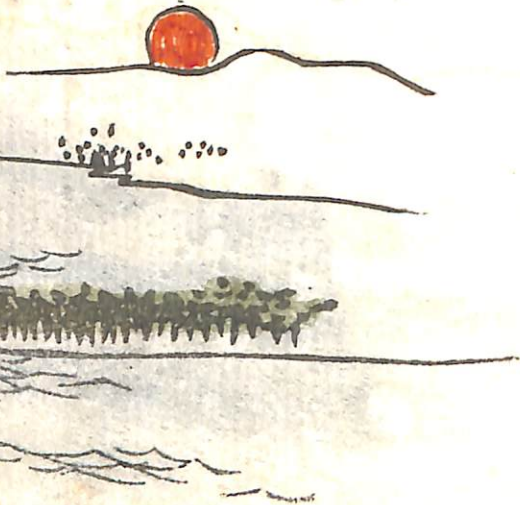
雨の花



初春の  
あけぼの  
の光

あけぼの  
あけぼの  
あけぼの

初春  
あけぼの  
あけぼの



あけぼの

あけぼの  
あけぼの  
あけぼの

あけぼの

あけぼの  
あけぼの  
あけぼの



あけぼの

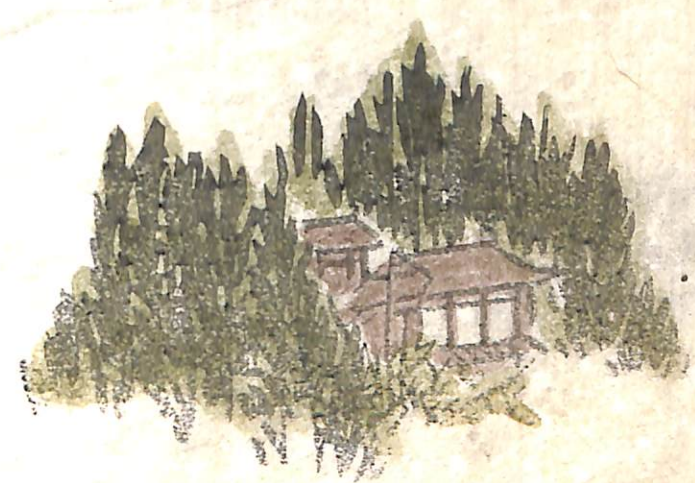
生田社 内

権原の心く  
おのふれ 梅並子  
墓一

西ノまろ心す

約々々々々々

神めき  
鯛



去奥

去の鷗

浪乃勝を

啼てり

泉居



歳旦

百言や文もさう

あまのまき 池田

亀水

せいほ

とくやせきひ

船の追風よさ

全



歳旦

紀州

五日庵

羅摩

君うたや廻り

鶴の初みどり

せいほ

まをまらまら

全

花いしかき





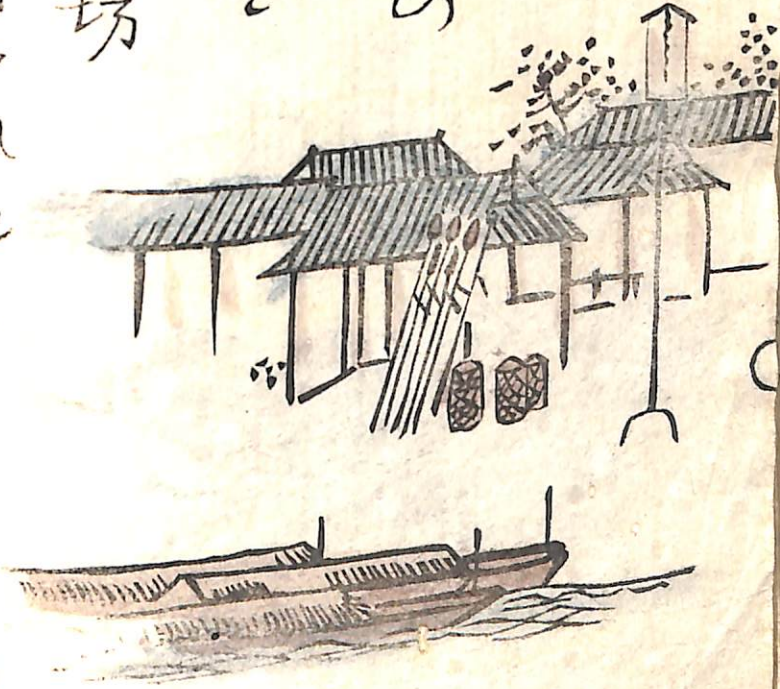
雲真

梅咲く

伏見乃きよ

舟くま

山猫坊



舟くま  
舟くま  
舟くま  
舟くま  
舟くま  
舟くま  
舟くま  
舟くま  
舟くま  
舟くま

父の米奉をねふと

肥松米也

肥松米也

梅窓

梅窓

透る大人八十八

笑一侍

八束八種加勢は

一炊菴

一炊菴



洛陽崎一灯老所の  
深居る縁をいれて

芥子画一みまると

ふくむ

之乃香箱

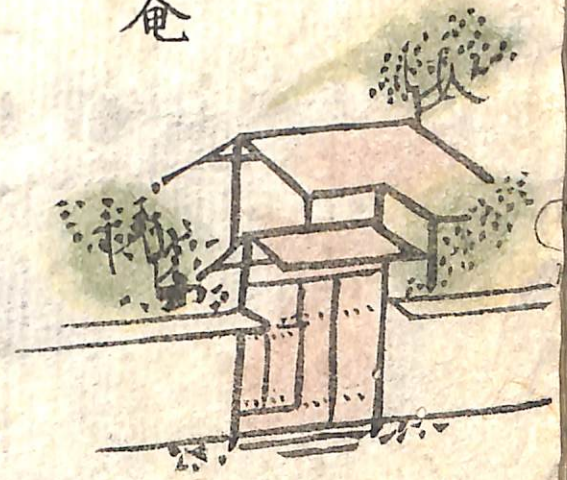
紀州  
白菴

おとろ

八千代物君より

才女も玉椿

洛  
之千菴



妻壘

又了度又緒

いつく〜

二乃〜

初とま

いふ乃

さか〜

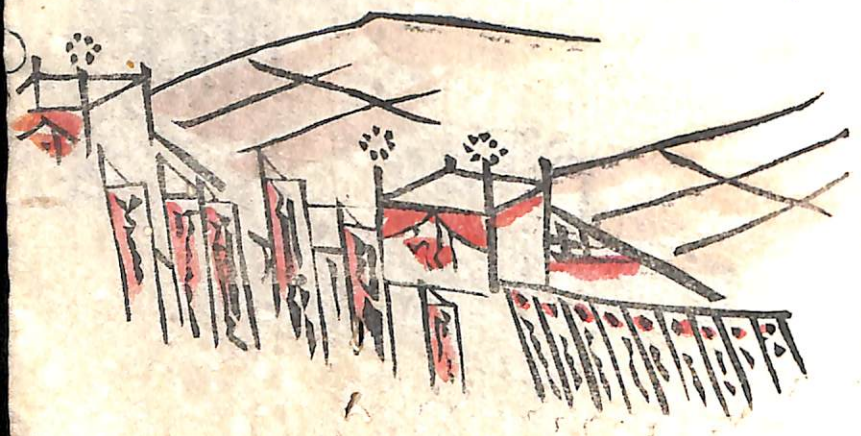
西柳

東菴

西来菴

為二章

杜曲



歳旦

大福の中へ

梅の芽うけ

芳軒

せいほ

下入直しとくち

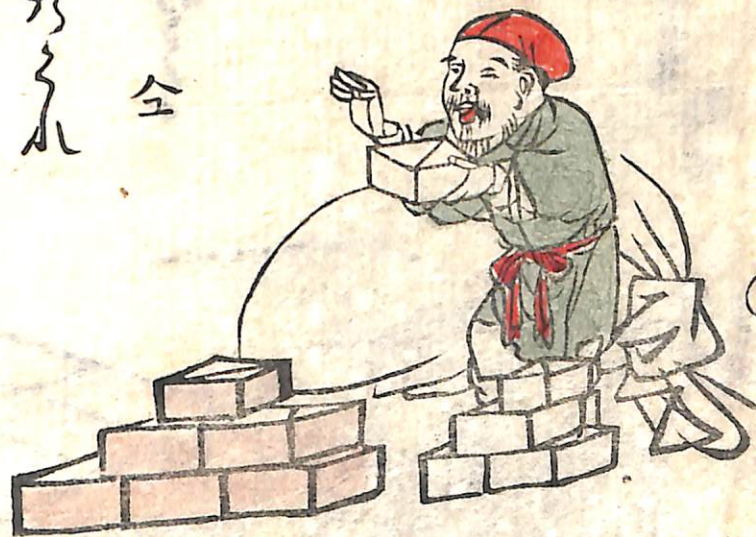
全

そらみどり  
乃えん

節分

あまのこ  
あまのこ

南水



文通

吾真

うききや新陰

和州  
萩原

雨の香のほれ 淳流

るる

あま

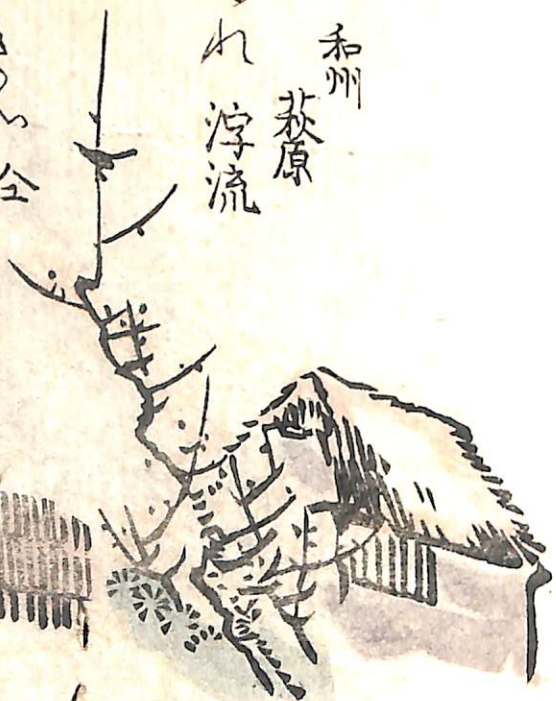
栞や  
きさ

あまの

いんや脊戸乃

全

松の枝の竹



又通

北越塩澤

い川 赤うちもも又くは 紙乃舌 秋月菴

とこ町 水々々や舌のゆく 峠 牧之

真州

紫明

酸乃 舌も口の 舌くしきく

一炊 老師く 山葵をさるる

玉とりのくふく

後河

琴馬

云 伊ん びん 丁と

一炊 菴のうまきふて

歌中三冊

千文

吹くもや 木の葉乃

はまの

ま



まきな二章

のりこもてまきな  
あしし夕雲花

まきなまきなまきな

酒の匂ひあり

白友

青巾



まきな

柳又て飯

ゆきけし

まきの雨

井  
電郷

まきな

萩の鳥乃

まきな



妻真

庭のあけぬ

さかしの

さか乃

柳乃

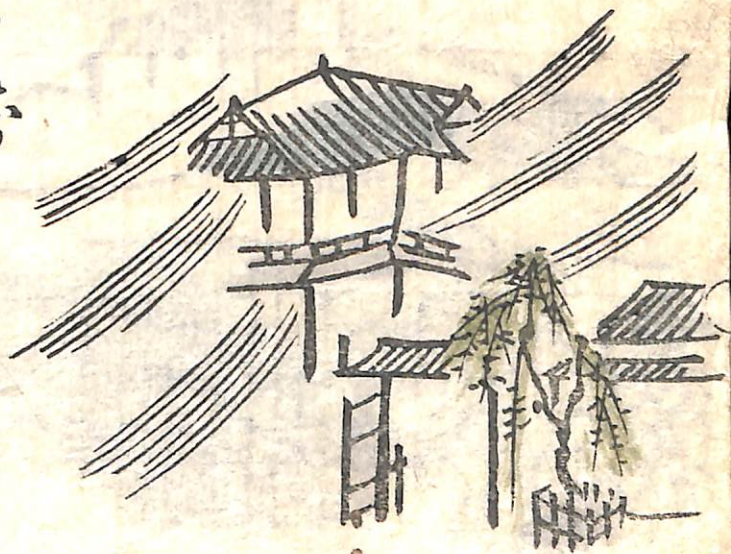
一時軒子新

あけの

あけの

あけの

あけの



竹乃

あけの

あけの

あけの

あけの

あけの

竹乃

あけの



月二章

たゞこのむらじ  
やうきとてあはる月

好藏川よ舟こころかな

夜乃月

千葉

路州



文政二己卯春

畫人

陶居戲里



俳諧書林

堺町四条上丁

菊舎太四郎梓

